

「扇の的」の臨場感を再現することを目指して ～演技指導書を作成する～

- 1 日 時 令和6年11月1日（金）1校時（9:00～9:50）
場 所 神石高原中学校体育館
- 2 学年・組 第2学年A組（男子15名、女子16名、計31名）

3 単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）国語第2学年〔知識及び技能〕「（3）我が国の言語文化に関する事項」の指導事項「イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。」と、〔思考力、判断力、表現力等〕のC 読むことの（1）「イ 目的に応じて複数の情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。」を受けて設定するものである。

本単元で扱う「平家物語」は、七五調を交えた和漢混交文で綴られており、独特の調子とリズムをもつことから、音読を通して古典のリズムに親しみ、その世界を身近に感じることができる作品である。平家の栄華と滅亡を描いた軍記物語として、武士の誇りを大切にする人物、敵・味方に関係なく他者の死に心を痛める人物など、多様な人物が描かれており、登場人物の心情に迫ろうとすることで内容の深い理解につながる。具体的には、扇を射ることを命じられた際にはためらいが大きく、武士としての誇りを守るために神仏に祈念する様子がある。一方で、人を殺める際にはためらいがないという武士独特のものの見方や考え方があり、その反応から推察するに、同じ武士と言っても一括りにできない価値観の違いが感じられる。このように、立場や人物により違う角度で物事を見ることができ、人間の多面性に気付くことのできる作品である。「扇の的」は、古典に表れたものの見方や考え方を知り、登場人物の言動の意味などについて考えるために適した教材であると言える。

4 生徒観

本学級の生徒は、令和6年度広島県児童生徒学習意識等調査において、「国語の勉強は好きです」の肯定的回答は93.8%、「国語の勉強はよくわかります」の肯定的回答は90.6%であり、国語の学習について意欲的な生徒が多い。

また、自らの考えを主体的に述べたり表現したりすることを得意としており、聴き合いを通して、質問や疑問を投げかけることによって読み深めていく発展的な学習に取り組む姿も見られる。

一方で、独自アンケートにおいて「古文の勉強は好きです」の肯定的回答は76.9%、「古文の勉強はよくわかります」の肯定的回答は61.5%であった。また、1学期に学習した「枕草子」における定期試験の正答率は、60.7%であった。

このことから、国語への興味・関心はあっても理解が乏しく知識も定着していないことが、古文を好きになりきれなかったり没入できなかったりする要因ではないかと考える。

5 指導観

指導に当たっては、人物の言動の意味などについて考えながら内容を解釈することで、古文特有のものの見方や考え方を知ることができるよう、次の2点の工夫をする。

- ① 「平家物語」の魅力がより伝わるように演技指導書を作成するという言語活動を設定する。演技指導書を作成するためには、教材文「扇の的」の臨場感や登場人物の言動の意味を的確に捉えなければならない。時代背景や心情描写に着目することにより、生徒が教材の細部に着目しながら読み、教材の魅力により多く気付けることを期待したい。
- ② 現代語訳だけを読んで内容を捉えるのではなく、古文のリズムに触れさせるために、句読点のない本文を読み、句点を施す活動を行う。この活動を通して「平家物語」を後世まで残そうとした人々の努力を感じさせ、魅力ある「平家物語」を自分たちも継承していこう、という意欲をもって演技指導書を作成することにつなげる。

6 単元の目標と評価規準

〈 単元の目標 〉

(1) 現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。〔知識及び技能〕 (3) イ

(2) 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 C 読むこと(1)イ

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

【単元を貫くパフォーマンス課題】

舞台監督として『平家物語』の一場面の演技指導書を作るというパフォーマンス課題を設定することで、単元全体の課題である『平家物語』に登場する武将たちが、どんなことを考え、どんな生き方をしているかを、登場人物の言動に着目して迫らせる。

〈 評価規準 〉

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解している。	「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈している。	粘り強く登場人物の言動について考えたり、描写を基に解釈したことを伝え合ったりして、学習課題に沿って演技指導書を作成しようとしている。

＜評価の具体＞

人物	本文		ト書き
	源氏方	源氏方	
伊勢三郎義盛	「御定ぞ、つかまつれ。」 と言ひければ、今度は中差取つてうちくはせ、よつびいて、しや頭の骨をひやうふつと射て、舟底へ逆さまに射倒す。平家の方には音もせず、源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり。 「あ、射たり。」 と言ふ人もあり、また、 「情けなし。」 と言ふ者もあり。	（中略） 「南無八幡大菩薩、我が国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくは、あの扇の真ん中射させてたばせたまへ。これを射損ずるものならば、弓切り折り自害して、人に二度面を向かふべからず。いま一度本国へ迎へんとおぼしめさば、この矢はづさせたまふな。」	・もし外したら自害する覚悟であることから、必死の思いで祈念していると言えるので、切迫した態度や表情が伝わるよう演じる。
源氏方	・先ほどとはちがい、祈念せずに躊躇いなく射ていることから、扇の時とは違ってプレッシャーを感じていないと言えるので、淡々とした態度や表情を意識する。	・同じ源氏軍の武士であっても反応がちがうことから、命に対する価値観は人それぞれであることがわかるため、多様な反応をそれぞれの役者が表現する。	
B評価の条件	・登場人物の言動に関わる表現を明示し、そこから解釈したことを基に、場面に応じた適切な役者の動きとその理由が書けていること。		
A評価の条件	・「扇の的」の特徴的な表現（対句・擬音語・波上の扇の絵画的表現など）を明示していること。 ・文脈に即して、教科書にはないセリフ（心の声）を補いながら、会話が成立していること。 （※上段の条件を満たしたうえで、上記の内容を記述できていたら質的な高まりや深まりをもっていると判断し、A評価とする）		

7 指導と評価の計画

(全 5 時間)

次	学習活動	生徒の思考の流れ	観点			評 価
			知	思	態	評価基準・評価方法等
1 (本時)	課題設定 『 古文の適切だと思われる箇所に句読点を付けることで、昔の人々の考えに思いを馳せることができる。 』					
	- 句読点の施されていない本文を読む。 - ふさわしい箇所に句点を施す。	- どこで区切ると意味が通じる文章になるだろう。 - 後世に伝えるために、昔の人は工夫したんだな。				
2	内容理解 『 現代と比較して、そのちがいに気付くことができる。 』					
	古文の表現を味わい、作者のものの見方や考え方を捉える。	- 現代との、類似点・相違点を挙げてみよう。 - 時代がちがっても命に対しての考え方には共感できるけれど、おかれている立場によってその考え方も違うんだな。	○			【知識・技能】 ワークシート ・ここでは、現代語訳や語注を手掛かりにして読み、現代との類似点や相違点を挙げているかを確認する。
3 4 5	パフォーマンス課題 『 舞台監督として『平家物語』の一場面の演技指導書を作る 』					
	「平家物語」の演技指導書を完成させる。 - 作成途中の演技指導書を相互に共有し、気付きを伝え合う。 - 完成させた演技指導書について、まとめを書く。	「平家物語」の魅力を伝えるためには、より詳しいものにまとめる必要があるね。 - 演技の指導は、本文を根拠にしたものである必要があるね。 - 人物の心の動きや、場面の様子がわかるようなト書きが必要だな。	○	○		【思考・判断・表現】 演技指導書 ・ここでは、登場人物の言動の意味などを解釈したことを基に、演技指導書を作成しているかを確認する。 【主体的に学習に取り組む態度】 演技指導書、まとめプリント ・ここでは、登場人物の言動の意味などについて解釈したことについて伝え合ったことを基に、演技指導書の修正や検討をしようとしているかを確認する。

8 本時の学習

(1) 本時の目標

古文の適切だと思われる箇所に句読点を付けることで、昔の人々の考えに思いを馳せることができる。

(2) 本時の展開

学習活動	◇指導上の留意事項	思考の流れ	評価規準 (評価方法)
1. 小プリントに取り組む。〔3分〕			
・小プリントに取り組む。 ・自己採点をして確認する。			
2. 既習事項、本時の流れを確認し、本時の目標を設定する。〔3分〕			
・前時の確認をする。 ・本時の目標・流れを確認する。			
(目標) 古文の適切だと思われる箇所に句読点を付けることで、昔の人々の考えに思いを馳せることができる。			
3. 課題の提示および聴き合いによる課題解決。〔34分〕			
・「平家物語」の概要について確認する。 ・「扇の的」の写本を見る。 ・平曲について知る。 (先人が後世に残そうとした労力について知る) ・教材文「扇の的」の、句点が施されていない本文を読み、内容理解をしながら、適切な箇所に句点を施す。 ・途中経過を報告し合う。 ・疑問や質問を交流する。 ・教材文「扇の的」を完成させる。	◇既習事項である、他の古典作品(枕草子・竹取物語など)を想起させる。 (印象に残っている古典作品を挙げさせる) ◇同じグループの中で行き詰った際には、他のグループと意見交換を行うよう促す。 ◇理由なく句点を付けることのしないよう指示する。 ヒント①：古語の提示 (古語辞典の活用) ヒント②：助動詞の提示 (※ねらいから逸れないよう必要最低限に留める)	・このままでは意味が理解できないから、正しい位置に句点を付けよう。 ・登場人物、セリフ、場面を整理しよう。(ホワイトボード) ・音読しながら確認してみよう。 ・古語辞典を使ってみよう。 ・句点を付けながら読むことで、物語の意味が少しずつわかってきたね。	

・正しく句読点の施された「扇の的」を確認し、音読する。	ヒント③：読点の提示 ヒント④：平曲を聴かせる		
4. 本時のまとめ、振り返りをする。〔10分〕			
・振り返りシートに気付きを書く。 ・気付きを回し読みする。	◇振り返りを読み合うことで、互いの思考を認め合い、次時につなげさせる。		
本時の期待されるまとめ・気付き （例）句読点のない文字だけの文章は読みづらいなと感じましたが、声に出して読むことで、少しずつまとまりを捉えることができました。句読点は、昔の人が後世にまで伝えるために施した工夫だと知り、今なお読み継がれている理由を捉えるために、次回はさらに内容を理解できるよう読み深めていきたいと思いました。			
・捉えられた内容から、人物の言動について考えてみたい箇所や気になる箇所に傍線を引き、次時の学習につなげる。		・内容理解だけでなく、自分事として捉えられるよう気付きを確認しよう。	